

例会報告：2017年3月7日（晴れ） 第1971回 通常例会

◆ 会員誕生日

須藤 公司さん (3月11日)
阿久津 馨さん (3月14日)



◆ 結婚記念日

三宅 常公さん (3月11日)
木村 頼弘さん (3月14日)

◆ 奥様誕生日

小林 真砂美様 (3月7日)
安藤 はな子様 (3月16日)

◆ ニコニコ箱
大野 英明 委員

	ニコニコ箱	累計	目標
3月7日分	16,000	572,235	1,200,000

* ビジター

小沢 重彦様 (小田原RC) …お世話になります。
下田 准一様 (小田原北RC) …本日お世話になります。よろしくお祈りします。

* 会員誕生日

須藤 公司さん…本日は誕生日のお祝いありがとうございます。49才になります。
阿久津 馨さん…誕生日のお祝い有り難うございます。

* 奥様誕生日

安藤 克己さん…妻の誕生日祝っていただきありがとうございます。
小林 和彦さん…妻の誕生日のお祝いをいただきありがとうございます。完全に忘れていたので助かりました。パーボンでも買って帰ります。

* その他

須藤 公司さん・木村 頼弘さん…先週行われた介助犬、聴導犬のウェルフェアポート湘南の泉様よりお礼のメールが届いておりますので、ご報告いたします。「3年間もご支援いただき皆様より多くの勇気をいただきました事、感謝申し上げます。4月の募金の時もお世話をおかけしますが、今後とも宜しくお願いいたします。」といった内容です。

◆ Table flower

- ・ブルースター
 - ・ガーベラ
 - ・スイトピー
 - ・プブレイユム
 - ・フリージア
- 【花言葉】
チブルースター：「信じ合う心」
ガーベラ：「希望」
スイトピー：「門出」
フリージア：「無邪気」




RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！

■ ■ 今後のメークアップ情報 ■ ■
-2017年3月-

- ▶15日 (水) 小田原北
- ▶16日 (木) 小田原中 報徳会館 12:30
「クラブ協議会⑤」
「規定審議会変更事項に伴う細則変更について」
- ▶17日 (金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「出前講座④」
- ▶17日 (金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「卓話：PETSを終えて 会長エレクト」
- ▶20日 (月) 休日休会
- ▶21日 (火) 箱根 宮ノ下富士屋ホテル 12:30
「卓話 会長エレクト」
- ▶22日 (水) 小田原北
- ▶23日 (木) 小田原中 休会
- ▶24日 (金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「55周年記念式典」
- ▶24日 (金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「卓話：国際奉仕」
- ▶27日 (月) 小田原 報徳会館 12:30
「卓話：プログラム委員会」
- ▶28日 (火) 箱根 宮ノ下富士屋ホテル 12:30
- ▶29日 (水) 小田原北
- ▶30日 (木) 小田原中 報徳会館 12:30
「クラブフォーラム⑦ (PETS報告)」
- ▶31日 (金) 湯河原 休会
- ▶31日 (金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「卓話：クラブ研修」

【小田原城北ロータリー・クラブ】
事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
URL：http://www.odawarajhrc.jp
Mail：info@odawarajhrc.jp
例会場：小田原卸センター内会議室
創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
例会：毎週火曜日 12:30～13:30
クラブ会報委員会
監修：櫻井 康二
編集長：小林 和彦
コピーライター：小林 和彦
デザイン：小林 和彦
フィールド：大川 久弥

会員数：36名



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
ODAWARA JOHOKU R.C.
2016-2017
WEEKLY BULLETIN



【R.I. 会長】
ジョン・ジャーム
【R.I. 2780地区ガバナー】
佐野 英之
【第9グループガバナー補佐】
高田 喜好



【会長】辻村 彰秀
【副会長】阿久津 馨
【幹事】櫻井 康二
【副幹事】荻野 善明
【会場監督】小川 和夫

人類に奉仕するロータリー
ROTARY SERVING HUMANITY

本日の例会：お花見例会 (第1972回)

会場：小田原市民交流センターUMECO 会議室5・6
日時：2017年3月14日 18:20～21:00
司会：荻野 善明 副幹事

18:20 ～18:50	開会点鐘：辻村 彰秀 会長 ロータリーソング斉唱 「我らの生業」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱 閉会点鐘：辻村 彰秀 会長
19:00 ～21:00	宴会：ダイニングWABITO

【今後の例会・卓話スケジュール】

- 3月21日 (火) 通常例会 12:30
卓話：弁護士 宇田様
「犯罪被害者支援活動について」
- 3月28日 (火) 通常例会 12:30
クラブ協議会 (PETS報告)
- 4月 4日 (火) 創立記念例会 (夜間)
場所：日本料理 料亭 門松
受付：17:00～17:30
例会：17:30～18:00
懇親会：18:00～20:00
- 4月11日 (火) 通常例会 12:30
卓話：コンサルティング会社経営 堀内様
「私の文化について」
- 4月16日 (日) 地区協議会
会場：立花学園高等学校(松田町)
登録：地区関係 10:30～11:30
一般登録 11:30～12:30
全体会議Ⅰ：12:30～13:50
部門別協議会：14:20～16:20
全体会議Ⅱ：16:35～17:15
懇親会：17:30～18:30
- 4月18日 (火) 休会

■ 寄稿 (15)

藤村 操 (みさお) は北海道出身の旧制一高の学生で、明治36年5月22日にわずか17歳を待たずして、日光華厳の滝で投身自殺をしたが、この話は大変有名である。その遺書である「巖頭之感」(がんとうのかん)には、要約すれば“人生不可解”ということを書いてある。彼の死は、一高で彼のクラスの英語を担当していた夏目漱石や当時の知識人、学生等にとって社会的な問題、大きな波紋となった。漱石の「吾輩は猫である」や「草枕」には、その彼の死の影響が大きく出ている。

いま私達が考えても、まことに「人生は不可解」と思います。人生ということは良くわからない。人生というのがよくわかったり、悟ったりしている人というのはそんなにいないでしょう。みんなわからずじまいに死ぬと思えます。百歳や九十歳で死んでも、人生というのはだいたい不可解でしょうね。不可解ですし、何を支えにしていけばいいかということも私には良く判りません。

人生は毎日毎日の日常の連続であって、またこの日常というものは非常にくだらないものである。朝起きて顔を洗い朝食をたべて、そのあと自分の仕事をする。その日常をコツコツ積み重ねてゆくと、ひょっとすれば何か出てくるかも知れないというのが人生だと。ノーベル賞の受賞者の生き方を見ていると全くそのように思います。

つまり、日常というものは非常にくだらないように見えるけれども、これをきっちり丹念に積み重ねてゆくしかありません。何か出る人もいるし、出ない人もいますが、いずれにしても積み重ねる以外に手はありません。

この日常をきっちりやらない奴は、信用できません。ロータリークラブでもまったく同様で、ロータリーの日常をきっちりやることが大切です。やっても何も出てこないかもしれませんが、人間としてもロータリアンとしても、まあ、日常の積み重ね以外ないということだけは確かですね。皆様はいかがお考えでしょうか。

大谷 宏

例会報告：2017年3月7日（晴れ）

第1971回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2017年3月7日 12：30～13：30

❖ 会長挨拶



辻村 彰秀 会長

皆さん、こんにちは！本日例会前に、この頃腰を悪くされお休みされていた大木会員がお顔を出されました。まだ、大変そうでしたが、良くなれば出席されるとのことで、皆様に宜しくとのことでしたのでご報告させていただきます。

まだ、3月初めですが松田山の早咲き桜もほぼ散ってしまいました。例年でしたら3月の中旬ごろまで花見客で忙しかったですが、今年はずでに終わってしまいました。

皆さんは6年前の2011年3月11日金曜日14時46分に発生した東日本大震災の時に、自分がどこで何をしていたか、すぐに思い出せますか？ 私はその時、会社において、地震発生とともに揺れの大きさに驚いて建物の外に飛び出し、松田山の売店にいた社員に電話しましたが通じず、すぐに車で松田山の売店に行き、アルバイトを乗せ、会社に戻り、社員と共にテレビ、ラジオで速報を見ていました。その時、実況放送で見た海原に広がる大きな津波が来る映像は未だに忘れられないものです。当日は深夜まで、高速道路は通行止め、電車も

運休、電話も通じず、息子たちを迎いに行くため、渋滞の中、車で何時間も過ぎておりました。その後数日間は、テレビにくぎ付けの日々でした。この震災は地震自体も観測史上最大のマグニチュード9.0、又、津波の大きさも最大40mを超すものでした。インフラに大きな被害を与えただけでなく、人的被害は、死者15,894人、重軽傷者6,152人、行方不明者2,561人ととんでもないものでしたが、津波により制御不能になった原発のメルトダウンにより、更なる被害、困難を残す戦後最大の自然災害となり、いまだに爪痕がしっかりと残っています。しかし、6年も経過すると“喉元過ぎれば熱さを忘れる”ではないですが、その時の気持ちや考えを忘れがちになります。3月11日にはテレビでもいろいろ特集されるでしょうが、ご自分がその時どう思い、どう考えたか思い返すことも大切なことではないかと思っております。

毎回で申し訳ないですが、私の年度も残り4か月となりました。是非4名増強のため新入会員のご紹介をお願いいたします。

最後にありますが、本日の卓話は、山内英嗣さん、針生信さんによる「遠隔医療を基軸とした街づくり構想」です。医療、介護、街づくりは今後の地方活性化の重要なキーワードだと私は思っております。又、卓話の資料に松田の寄が出ているので楽しみにしております。宜しく願いいたします。

来週の例会は、お花見例会となり夜間例会ですので、昼間例会場に來られないようお気を付けください。以上、会長挨拶でした。ありがとうございます。

❖ 幹事報告



櫻井 康二 幹事

1) 神奈川県ロータリアン親睦テニス会（上野杯）が開催されます。参加希望の方は、申込書及び詳細が事務局にあります。
2) 次週は、夜間例会（お花見例会）です。皆さま宜しくお願いします。

- 3) 本日第9回理事会が開催されました。
・村瀬会員から出席免除が提出されました。
・創立記念例会の案内状をポストインしました。
・次回定例理事会は4月11日に変更になりました。

❖ 出席報告

本多 純二 委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
3月7日	36(34)	24	0	70.59%
2月28日	36(33)	25	1	78.79%
2月21日	36(33)	21	0	63.64%

【欠席者】：10名

齋藤 永、一寸木 芳行、内山 修一、木村 啓滋、
露木 清勝、富田 浩一朗、大木 清、長田 英一、
大高 英之

【今回MU】なし

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

❖ 委員会報告

ロータリー財団委員会・石崎委員長

ロータリー財団からのご報告です。財団の寄付を集める時期になりましたが、地区ガバナーの方針は財団1人200ドル以上、ポリオプラス40ドル以上が目標です。昨今の経済状況や当クラブの会員大幅減少を考えるとあまり無理した集め方をしたくないので、1人1万円のご寄付をいただきたいと思っております。年会費から1万円を出すとポリオの分が4千円、残りが財団への寄付となります。今のレートでは200ドルに到達しませんので、余裕のある方はぜひ幾らでもプラスをお願いいたします。3年未満の会員の方はまだ財団の意義等理解不足の部分もあるでしょうから、6千円の寄付をお願いします。21日から集めさせていただきます、4月中旬には送金の予定です。ご理解ご協力をお願いいたします。

社会奉仕委員会・須藤委員長

先週の例会では介助犬・聴導犬への募金をありがとうございました。4/9に補助犬の一般への募金活動を小田原駅アークロードで行います。9時半から15時半までですので、ご都合の良い時間30分でもご協力をお願いします。メ切は3/28までです。

❖ 卓話

「遠隔医療を基軸とした街づくり」



株式会社ライフデザイン 代表取締役・山内 英嗣 先生

今日は遠隔医療の可能性のお話しと実際にデモ診断をお見せしたいと思います。東大のドクターと遠隔デモ診断ができるようにしておりますので、どうやって行われているかイメージしてみてください。

今我々が取り組んでいるのは、海外でなかなか医療を受けられない人に対して日本のクオリティの高い医療を世界中に届けるということです。2年間かけてメキシコやフィリピンなどでデバイスを通して日本からドクターが健康相談に答えたりできるように進めています。

その活動に多くのドクターも賛同してくださり、200名ほどのドクターが活動をサポートしてくれています。今日繋がっているドクターもその中の1人です。元々医療は高齢化社会を迎えるにあたって必要な分野ですが、医療費が高騰したり問題を抱えていることは否めません。その中で我々は遠隔でまず相談できる仕組みを考えました。何でもない時に相談できる体制が整っていれば、救急車を呼ばなくて済んだり、病院まで行かなくて済んだりできると考えました。まず私が何故iPadを使ってドクターと繋ぐことを思いついたかという、2014年に娘がガラスで怪我をしたのです。4歳の女の子でしたので傷痕を残したくないと考えました。病院に行くべきか？皮膚科なのか形成外科なのか？そこで知り合いの形成外科のドクターにFacebookのメッセージを利用して連絡しました。すると『今、PKOで南スーダンにいますので後で連絡します』と返事が来たのです。その時に「南スーダンと大丈夫かな」という思いはありました。しかし何枚か画像を送ったら『そのテープはやめて、こういう風に手当てしてください』と細かな指示をくれたのです。必要な素材は全てドラッグストアで簡単に買えるものでした。傷が残らないように教えてくれて『1週間経ったらまた画像を送ってください』と。本当にきれいに治って、南スーダンとのコミュニケーションで助かったという体験があったのです。これは凄いいました。インフラ自体は元々利用していたFacebookですし、無料で、病院に行かず済んだのです。これはもしかしたら可能性があると感じました。それで3年前、可能性を探りながらドクターと相談しながらスタートしました。最初は、こんなもので診断はできないなどと色々言われましたが、賛同者も出てきました。私は整骨院をやっていますが、ひどい捻挫で成形外科に行った方がいいか迷う時は専門の先生に連絡して動画で見てもらい、患者さんの負担が減らせます。当時、メキシコの無医村で活動していた針生先生も賛同してくださって、一緒に活動を始めました。

私が寄の話をいただいたのはNPOの方から「寄は病気になるると下山しなくてはならない」と聞いて興味を持ちました。家で治療するのが皆の総意だということだったので、それなら今やっていることで貢献できるのではないかと参画しました。町長とお話した時に、寄を中心として世界に発信できることがあるんじゃないかと言われて、なるほどと思いました。例えばインフラに頼らないクリーンエネルギー、例えば無農薬の作物、そういったものを集約し町として最適化して医療も加われたらすごいことだと。世界に輸出できるんじゃないか、過疎地域に貢献できるんじゃないかと大きな視点でお話いただき、私も医療で一角を担いたいと感じました。我々で新しいワールドスタンダードを作れるかもしれません。寄で全て揃う循環型の町が作れるかもしれません。そこで出てきたのがグランドデザインです。どんな町づくりをするか、町長がリーダーシップを取れば可能だと思います。まず寄という集落内で未病予防が可能なら、私は貢献できると感じました。

皆さまで遠隔医療、遠隔判断を受けたことがある方はいらっしゃるでしょう。厚生労働省の通達で遠隔医療は認められていますが、初めての仕組みなので普及していないのが現実です。

品川にいる東大のドクターと繋がっていますので、実際にデモを体験してもらいたいと思います。スマホなどでも可能です。今日はお腹が痛いという設定で始めます。

（食事の前後で痛みは違うか、痛みの場所、押した時に痛いか離れた時に痛いか、など診療していく。症状により通院を勧め、近くの病院を紹介する）

ざっとお見せしましたが、医療に行く前のゲートキーパーのようなものです。家庭の常備薬で済むか、病院に行く必要があるか、何科を受診すべきか、などを教えてもらえる感じです。そして遠隔にはもっと別の可能性もあります。



針生 先生



私は鍼灸師や中国医学の資格を取ってから予防医学の意識が高くなりました。東京で鍼灸整骨院を運営する中で、連携しているドクターから「薬だけもらいに來るお客様に対して何かできないか」と相談を受けました。それを受けて区役所や保健所と連携して調べた中で見たことがあります。そもそも病院で診察が2～3分で終わってしまう医療現場の実態。それは実はそれほど診ることがないからなのです。あまり情報がなくても普段の薬は出してもらえます。ならば行かなくても電話だけで済むのではないか、その可能性を伸ばしていきたいと思っております。患者さんが減っても待ち時間が無くなったり収入が他の面で上がってくるなど好転もあり、クリニック側にもマイナスイメージはありません。山内先生と

会って、これをもっと過疎地などにも広げていけるのではないかと気づきました。例えば過疎地にいらっしゃるドクターは1人で総合診療医とならなくてはなりません。その不安を、連携している専門医が情報共有しながらサポートできます。海外にいるドクターが日本のドクターと相談できたらどれだけ心強いのか。可能性を感じます。これからの世界の未来に対してできることを頑張っていきたいと考えています。

遠隔ですと触診はできません。でも患者さんに「こうしてみ」「そうやって」と伝えて視診することができます。貢献の可能性は大きいと思っております。

私は未病予防に興味があったのですが、強固になったのは去年96歳で亡くなった祖母が病院にも介護にもかかっていたこと。私は健康なので医療に関わらなくて大丈夫」というセルフイメージもありましたし、薬草を育てて毎日歩き前日まで普通の一日を過ごしていました。素晴らしい最期だと思います。自分は健康であるというイメージは重要です。痛みや苦しみを自慢するような人もいますが、手軽に病院に行くシステムを手前で防げれば、医療費を下げられます。日本の超高齢化の問題も、一人一人そのマインドを持っていれば乗り越えられると思います。今、経済破綻した夕張の医療費がとても減っているそうです。病院が少なくなったことにもありますが、そのせいで自分の健康を自分で守る意識の高まりが大きいようです。そういう意識が皆にあれば本当に大切な医療にお金がかげられます。日常から健康になれる仕組みを寄から始めたい。最先端のハイテクノロジーを利用したものと、地域で未病を予防していく実施が組み合わせられた時に、新しい町が作られると考えています。